

消防団長紹介



寝屋川市消防団 団長 柴田 五十六

寝屋川市は、大阪府の東北部、淀川左岸（上流から下流を見て左側）に位置し、大阪市域の中心から 15km、京都市域の中心から 35km の距離にあります。南北は、

7.22km、東西は 6.89 km に広がり、面積は 24.70 km² になります。

明治 22 年に町村制が施行され、市域に茨田郡九箇荘村・友呂岐村、讃良郡豊野村・寝屋川村、交野郡水本村が成立しました。明治 29 年に、各郡は北河内郡になり、昭和 18 年 4 月には九箇荘町・友呂岐村・豊野村・寝屋川村が合併して寝屋川町になりました。昭和 26 年に市制が施行されて寝屋川市が誕生し、昭和 36 年には水本村と合併、続いて昭和 41 年に一部が大東市に編入された、現在の市域になりました。

寝屋川市消防団の歴史は、昭和 22 年 5 月に消防団（315 名）が結成され、昭和 26 年に市政施行に伴い寝屋川市消防団となりました。その後、昭和 36 年に水本村と合併後消防団編入定員 425 名となりました。昭和 41 年 4 月に消防団組織を改正し、定員 435 名となり現在に至ります。

活動状況としましては、年間を通して放水訓練や新任団員教育訓練等の訓練を行うだけでなく防災訓練指導や各種祭りの警備、歳末警戒等も実施しています。

私は、昭和 48 年 8 月 1 日に団員を拝命、昭和 63 年から班長、副分団長、分団長を歴任し、平成 12 年 4 月 1 日からは副団長、平成 20 年 4 月 1 日からは団長を務めています。

学生時代から相撲をとっていたことから、現在でも心身ともに健康です。

また、常に寝屋川市・地域を第一に考え、消防団員だけでなく、地域住民の色々な人に声掛けをするよう努めています。

40 年程前、寝屋川市は炎上火災が多い時代でした。1 年間で約 270 件（その他火災・車両火災・建物火災等）の火災が多く発生し、建物火災は、270 件の内、約 5～6 割程ありました。多い時には、1 日に 3 件続けて炎上火災出動があり、疲れてフラフラになった事もあります。

ある時（夜中）、建物火災が発生し、現着時には、火炎が上がっていました。私は、炎上している家の裏側にまわり、2 階から放水しました。その結果、裏側の家の被害は、火炎の熱で庇の樋が使用不能になる程度で済みました。火災が鎮火し、我々団員が、帰所の為ホース撤収等をしていると、その家のお婆さんが我々団員に手を合わせて（神様に祈るように）、家が類焼しなかった事を、喜んで頂き、お礼を何回も言って頂きました。その時、私は、消防団活動のやりがいというものを感じることができました。

今でも変わらず、消防団活動は、郷土愛後・奉仕の心と感じています。

寝屋川市消防団では、過去から挨拶の中で、署・団で車の両輪とよく言われました。

しかし消防団車両のタイヤは 1 m であるが、消防署・事務局車両のタイヤは 80cm だと上手くはいきません。そのため、団車両のタイヤを 10cm 小さくして 90cm にし、消防署・事務局車両のタイヤを 10cm 大きくして同じ 90cm にすれば、5分5分の関係になります。

こういった関係性をこれからも築いていき、大災害時に於いては、連携をもった活動を行うことで、被害軽減の任務を果たせると考えています。